

自衛隊南西諸島配備と馬毛島

池尾靖志（立命館大学非常勤講師）

<https://yaikeo.com>

◇はじめに

- ・加速する日米防衛協力、米軍／自衛隊の区別は意味をもたない
- ・馬毛島
 - 米空母艦載機の岩国移駐に伴い、離着陸訓練（FCLP）の移設候補先として浮上
 - 2005（H17）年10月29日：「日米同盟：未来のための変革と再編」
 - 短距離離陸・垂直着陸型ステルス戦闘機 F35B の離着陸訓練も検討（『毎日』2019/3/28）
 - 自衛隊の事前集積拠点、「島嶼防衛戦」の上陸訓練地（小西誠）

◇日本の安全保障政策：自助努力＋日米防衛協力

- ・「国防の基本方針」策定（1957年）
- ・「国家安全保障戦略」（2013年12月17日閣議決定）：外交政策＋防衛政策
 - ・「我が国の安全保障をめぐる環境が一層厳しさを増している」
 - ・「国境離島の保全、管理及び振興に積極的に取り組む」→国境離島新法（2017年4月）
- ・日米防衛協力の指針（ガイドライン）
 - ・1978、1998、2015年
 - ・「自衛隊および米軍は、日本への陸上攻撃に対処するため、陸、海、空または水陸両用部隊を用いて、共同作戦を実施する」

◇防衛政策における南西諸島の位置づけ

①防衛白書による記述

（対馬：2010（H21）防衛白書）

- ・2010（H22）防衛白書にはじめて、「南西諸島防衛に関する現状」が掲載
 - ・陸自：沖縄の第1混成団を第15旅団に改編・強化（2010年3月）
 - ・海自：艦艇や航空機による南西諸島周辺海域における警戒監視
 - ・空自：F15戦闘機部隊を那覇基地に配備
 - ・宮古島以西には、空自のレーダーサイトが所在するほか、部隊配備なし、

防衛上の空白地帯、新たな部隊配備も含め検討中

- ・ 2011 (H23) 防衛白書
 - ・ 「自衛隊の体制-南西地域の防衛体制の強化-」
 - ・ 「島嶼防衛に関する訓練について」
 - ・ 平成 22 年度から方面隊規模の実働演習を開始
 - ・ 平成 23 年度：西部方面隊において、当初への部隊の展開および島嶼部の対する攻撃への対処要領を実働にて演練
 - ・ 2006 年 1 月以降、陸自、米海兵隊との実動訓練
- ・ 2012 (H24) 防衛白書
 - ・ 「離島基地で勤務する隊員の声-対馬・宮古島・南鳥島-」
 - ・ レーダー器材の保守整備
- ・ 2013 (H25) 防衛白書
 - ・ 「あるべき防衛力の機能を巡る議論について」：的基地攻撃能力、海兵隊的機能
 - ・ 「南西地域の防衛体制強化について」
 - ・ 2012 年：北朝鮮によるミサイル発射、中国公船によるわが国領海への侵入、中国航空機による初めてのわが国への領空侵犯
 - ・ 「南西地域における海上保安庁と海上自衛隊の連携について」
 - ・ 2012 年 9 月：尖閣 3 島（魚釣島、北小島、南小島）の所有権の取得
 - ・ 「陸・海・空自衛隊による島嶼侵攻対処」
→米国における統合訓練（実動訓練）（ドーン・ブリッツ 13）への初参加
- ・ 2014 (H26) 防衛白書
 - ・ 「南西地域への陸上部隊の配置および機動展開能力の強化について」
（→後述（陸自創隊以来の大改革））
 - ・ 「防空・警戒監視体制の強化について」

② 「防衛計画の大綱」

- ・ 「基盤的防衛力構想」 →防衛力の「存在」を重視
- ・ 16 大綱：「島嶼部に対する侵略への対応」
- ・ 22 大綱（H23 年度以降に係る防衛計画の大綱）
 - ＊ 「南西地域に自衛隊の活動基盤が手薄な地域があることが浮き彫りになった」
 - ・ 「動的防衛力」：国家の意思や高い防衛能力を示す→防衛力の「運用」に着眼
 - ・ アジア太平洋地域の安全保障環境の一層の安定化
 - ・ 島嶼部の危機

- ・中期防衛力整備計画（平成 23（2011）年度～平成 27（2015）年度）
 - ・島嶼部に対する攻撃への対応
 - ア) 情報収集・警戒監視体制の整備等
 - ・陸自の沿岸監視部隊を配置
 - ・移動警戒レーダー、隙のない警戒監視体制
 - ・早期警戒機（E-2C）の整備基盤
 - イ) 迅速な展開・対応能力の向上
 - ウ) 防空能力の向上
 - エ) 海上交通の安全確保
- ・26 大綱（H26 年度以降に係る防衛計画の大綱）
 - ・「統合機動防衛力」：防衛力の「質」と「量」
 - ・後方支援基盤の確保：抗たん性の向上（敵の攻撃を受けたときの組織的機能維持能力）
 - ・南西地域の防衛体制の強化
 - ・陸自創隊以来の大改革 * 島嶼部に対する攻撃への対応
 - ・「部隊配置」：沿岸監視部隊（与那国島）、警備部隊
 - ・「機動展開」：航空機などでの輸送に適した機動戦闘車の導入、即応機動連隊新編
 - ・「奪回」：水陸機動団の新編
 - * 機動戦闘車、水陸両用車、オスプレイ（V-22）の導入
- ・30 大綱
 - ・「中国は、軍事力の質・量を広範かつ急速に強化している」
 - ・日米共同作戦計画の策定
 - ・海自：哨戒機、護衛艦による東シナ海周辺の警戒監視の強化
 - ・空自
 - ・那覇基地の戦闘機部隊の大幅増強：対領空侵犯措置にあたる
 - ・南西航空混成団→南西航空方面隊に格上げ
 - ・陸自
 - ・2018 年 3 月「水陸機動団」（日本版海兵隊）
 - ・2100 人体制で相浦駐屯地（佐世保）に発足
 - ・離島防衛の専門部隊、本格的な水陸両用部隊
 - ・南西諸島の防衛力強化が狙い
 - ・将来的には沖縄県にも部隊配備、3100 人体制に？
 - ・南西諸島への陸自配備
- ・中期防で海自型「いずも」型護衛艦の「空母化」、艦載機 F35B 導入決める

◇国際関係論の基礎知識

- ・「安全保障のジレンマ」
 - ・ 自国の不安を解消しようと防衛力を増強する
 - ・ 相手国が不安に駆られ、相手国の防衛力が増強する → 自国の不安が増強する
- ・「同盟のジレンマ」
 - ・ 「見捨てられる不安」
 - ・ 「巻き込まれる不安」
- ・ 覇権移行論：挑戦国が覇権国を追い抜こうとすると、戦争が起きる（起きやすい）
- ・ オフショア・バランシング→日中の対立を望んでいるのは？

◇まとめ

- ・ 「安全保障のジレンマ」を引き起こさないために・・・
- ・ 中国脅威論を乗り越える
- ・ 日本の安全保障は？
 - ・ 外交による努力
 - ・ 大国ではなく、ミドル・パワーとしての役割を果たす
(アーミテージ報告：二級国ではなく一級国をめざす)